

神吉 史跡めぐり

歩いてまわれるコースで名所旧跡を紹介する散策シリーズ。
いにしへのロマンと、歴史との出会いを求めて、ゆったりと歩いてみたい「神吉史跡めぐりコース」。
加古川再発見に、さあ、出発！



コース 所要時間 1時間51分・7.3km

西神吉小学校

1.2km
18分

神吉八幡神社
宮山遊歩道

1.5km
23分

神吉の常楽寺
(神吉城址)

0.6km
9分

中西廃寺

2.5km
38分

辻姫の墓

1.5km
23分

西神吉小学校

神吉 史跡めぐり



辻姫の墓 辻姫のはなし

むかし、尾張の国に高谷左衛門尉秀重という武士がいました。今川義元について都へ進撃の途中、織田信長の奇襲にあい西へ敗走し、現在の加古川市西神吉町辻の地に住みつきました。しかし、再起の志をすてきれず、土方城主と手を結び、その出城であった辻山の砦の主となりましたが、秀吉の播磨攻略に破れ、ついに一族とともに戦死したそうです。

秀重がなくなってから、妻「辻」は6人の男の子を連れ、危うく難をのがれて、流浪の旅にでましたが、やがて、ふたたびこの地に帰り、多くの困難にたえぬき、子どもたちを養育しました。大きくなった子どもたちは、深く世の無常をはかみ、一堂を建てて、高峯山正念寺という今のお寺の前身をつくり付近に住む人々もだいにふえて、集落ができたそうです。母親の「辻」の名が、ついに地名となって「辻」と呼ばれるようになりました。現在ここには「辻姫の墓」というお堂をたてて石かんをおまつりしています。

道満の一つ火

毎夜九つ(今の12時過ぎ)になると、岸の道満屋敷から火の玉がでてかんが用水を伝って東に走り出た。火の玉は天下原にある「こけ地蔵さん」まで来て消えてまた岸に帰っていきました。これを「道満の一つ火」と呼んだそうです。

今から1000年ほど前、戸屋道満という陰陽師(占い師)が岸に生まれ、大きくしてから京にのぼりました。

道満は堀川左大臣藤原顕光に頼まれて、御堂関白藤原道長を呪い殺そうとして土器の中に朱で一文字を書き、こよりで結わえて法成寺の土中に埋めました。

ある日道長は、神通力を持った白い犬を連れて法成寺を参詣しましたが、犬が道長の衣服の裾をくわえて寺へ入れさせようとしません。不審に思った道長は安倍清明(陰陽師)に尋ねると「関白を呪い殺そうとする者がおり厭物を土中に埋めているからだ。」と言うので掘り返してみると泥封の土器が出てきました。

これを見た清明は、この術を知っているのは自分以外には道満法師だけであると言ひ、紙を折り呪文を唱えて投げると紙が鷲になって飛び去りました。

そして鷲の行方突き止めてと道満が住んでいました。

道満は捕らえられ、故郷の播磨に追ひ返されました。

「道満の一つ火」は絶えず京に向いていた道満の魂が火の玉となって東へ飛んでいくのですが、天下原の「こけ地蔵さん」までくるとお地蔵さんになぐさめられて、また岸の道満屋敷まで帰っていったそうです。

道満屋敷は現在の正岸寺のお寺の境内にあったそうです。



田中五郎兵衛

田中五郎兵衛は、西村の代々庄屋を努めていた家に生まれ、神吉民部一族の子孫です。その当時の東部は畑で水利が悪く、綿や大豆しかできませんでした。田中五郎兵衛は、何とか稲の作れる水田にしたいと思い中西村の庄屋と相談し神吉大池から水を引くことを考え、1654年に用水路を完成させました。



中西廃寺

西神吉町中西にある廃寺跡です。出土する古瓦から白鳳時代の寺院跡だと推定されています。

南を見ると、展望が開けています。遺構としては、巨大な塔の心礎が残されており、石造りの露盤と利(きつ)は、すぐ近くにある「石井の清水」の井戸枠に使われています。



いわい 石井の清水

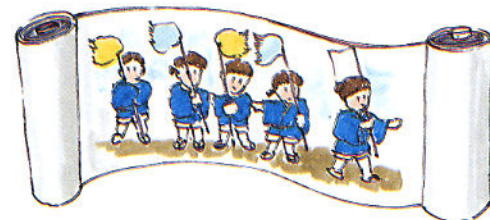
弘法大師が杖でついたところ、突然きれいな水が湧いてきたといわれています。昔の面影が残る旧街道筋にあり、現在もこんこと湧きつづけています。



神吉八幡神社

祭礼絵巻 1820年の作で、当時のこの地方の祭礼の様子が鮮やかに描かれています。

灯籠 加古川市内ではもっとも古い灯籠で、神吉城主神吉民部太夫によってたてられました。



那須の与一さん

須磨の那須の与一崇高の墓まいりをしていたある人に「汝、我を信じて遠きよりの地に参詣するも、我は病中播磨の国、神吉の莊高野山慶妙寺に参詣していたが遂に落命せり。現在、神吉村の西にある釈迦堂というところにて火葬せらる。彼の半折の石仏は自分の像なり。これよりここに参詣すべし。」とのお告げがあったといわれています。その後、毎月7日には多くの人々のお参りがありますが、ここへお参りすると、長わづらいをせずにすむと言ひ伝えられているからです。



神吉の常楽寺(神吉城址)

浄土宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。

ここはもと神吉城のあったところで、天正6年(1578)神吉頼定の守る城兵二千を、織田信忠、羽柴秀吉の三万の大軍が攻め、激戦の末、落城しました。境内には頼定の墓があります。